

梅花

王安石

王安石

王安石

牆角數枝の梅

寒を凌ぎて
独り自ら開く

遙かに知る
是れ雪ならざるを

暗香の来る
有るが為なり

【作者】

王安石（一〇二一〜一〇八六年）北宋の政治家。唐宋八大家の一人。宰相となり長年温めていた政治理念を実行し財政の建直しなどに実績を上げたが、一面、特権階級の利益を侵すことになったので保守派の大きな反動を受けた。

【語釈】

* 牆角：垣根のすみ。

* 暗香：どこからともなく漂ってくる香り。

【通釈】

垣根のすみにすうほんの梅の枝が出ている。見るとその梅は寒さをものともせず、ただひとり他の花にさきがけて

咲いている。遠くから見ると雪のように白く見えるが、それが雪でないことがすぐわかる。それはどっからともなくほのかな花の香りが漂ってくるからである。